「流域単位の地域理解」をわかりやすく伝えていくために

神田 浩史

講演概要

「あなたは何川の流域に暮らしていますか？」という問いかけに戸惑われる方が増えてきています。水は蛇口を捻れば出て、食べ物も、建材も、世界中からやってくることで、暮らしの、社会の、基盤をなす「流域」が見えにくく、わかりにくくなっています。100 年前は当たり前だった「流域単位の地域理解」。川や水、環境や生態系に関心の高い人々の間では自明の地域社会の捉え方が、広がりを欠いてきています。災害にも対応力の高い、永続可能な地域社会を構築していくために、富山和子さんの教えを踏まえて、グローバルな産業構造や社会構造の視点を加味して、改めて「流域単位の地域理解」の大切さを考えていきたいと思います。より多くの方と「流域単位の地域理解」の大切さが共有・共感できれば幸いです。

講演の流れ

- はじめに 私にとっての「流域単位の地域理解」
  琵琶湖・淀川流域、保津川・桂川三津、薪炭商、筏流し、舟運・水運
- ODA と NGO 海外での経験から
  モシ川（タンザニア）、アナンブラ川（ナイジェリア）、ガンジス川、メグナ川、ブラマプトラ川（バングラデシュ）、メコン川（ラオス、タイ他）、チャオプラヤ川（タイ）、ブランタス川、アサハン川（インドネシア）、チグリス・ユーフラテス川（イラク他）、ヨルダン川（ヨルダン、パレスチナ他）
- 富山和子さんの考えをグルーバルに展開すると
  林産物、森林破壊、熱帯林、木材貿易、農産物、田畑、飽食と飢餓、食料貿易、水産物、農林漁業の衰退、農山漁村の崩壊、都市集住、辺縁化と貧困、防災脆弱性
- 「流域単位の地域理解」を深化させながら、「流域単位の地域理解」を広める
  地域づくり NPO、揖斐川流域、垂井町、揖斐川流域クリーン大作戦、揖斐川流域 ESD（Education for Sustainable Development）、地域のお作法、流域の歴史
- おわりに 「流域単位の地域理解」をわかりやすく伝えていくために
  - 流域循環型社会の再構築、穏豊社会、協働、水・食・カネ・エネルギー・人

略 歴

京都市生まれ。

大学を卒業後、開発コンサルタント企業に勤務し、ODA の農業開発事業に従事。企業を退職後、主に東南アジア各地の地域づくりの現場を調査研究し、日本政府の国際協力・ODA 政策策定に関わる。現在は、全国各地で地域づくり、環境・水・川、NPO・NGO などに関する講演を行うかたわら、複数の NPO の役員としてグローバルな観点を踏まえた上で、流域単位の循環型社会の再構築を図る社会を「穏豊」社会と銘打ち、揖斐川流域での穏豊社会の実現に向けて地域づくりに関わっている。同時に、SDGs コンサルタントとして、全国各地で講演や研修講師を務める。同志社大学をはじめ全国 8 大学で非常勤講師。

共著に『食・農・環境を活かした地域づくり』、『どうなっているの？日本と世界の水事情』、『川辺の民主主義』、『京の水案内』、『フェアトレードタウン』、『おんなたちは鬼になる』、『ODA をどう変えればいいのか』など多数。

岐阜県不破郡垂井町在住。